民主党政権の検証と失敗の総括

- はじめに
  - 報告書の目的
    - 民主党政権の失敗を事例に基づいて検証する。
    - 政権交代以降の2年10ヶ月の状況を振り返る。
  - 民主党の本質的欠陥
    - 政権交代を目指すだけの政策理念の不在。
    - 国家観や憲法観の共有ができていない。
- 民主党政権の根源的問題
  - 国家運営能力の欠如
    - 法治主義の欠如
      - 行政を自らの都合で動かすために法律を無視。
      - 組織の乱立と手続きの無視が行政に混乱をもたらす。
    - 誤った政治主導
      - 官僚を排除することで意思決定プロセスが機能不全に。
      - 政務三役会議から官僚を排除し、情報の共有が不足。
    - 政策決定一元化の失敗
      - 不完全な一元化により、政策調査会が廃止され権力が集中。
      - 結果として、政策決定が混乱し、実現されなかった。
  - 党運営能力の欠如
    - 国家観・憲法観の不在
      - 党内の意見が分かれ、憲法論議に消極的。
      - 党としての綱領が存在しないため、政策がその場しのぎ。
    - 内部手続の不備
      - 意思決定方法が明文化されておらず、民主的な運営ができない。
      - 党議拘束についての定めがないため、執行部の恣意的運用が可能。
  - 経済運営能力の欠如
    - 成長戦略の欠如
      - 競争力を削ぐ政策が続き、国内企業が苦境に。
      - マクロ経済政策の欠如により、GDPが50兆円失われた。
    - 円高・デフレ対策の不備
      - 歴史的な円高を放置し、デフレを加速。
      - 景気対策に無関心で、国際的な支出ばかりを優先。
- その他の問題
  - エネルギー政策の不備
    - 行き当たりばったりの政策
      - CO2削減目標の見切り発車。
      - 太陽光パネル設置の具体策が不明。
  - 生活保護問題
    - 受給者の増加
      - 「速やかな保護決定」の通知が逆効果に。
      - 制度見直しの必要性が高まる。
  - JAL再生問題
    - 不透明な企業再生
      - 中小企業支援機構の不適切な運用。
      - 不公平な優遇措置が問題視される。
- 不祥事の続出
  - 総理の不祥事
    - 鳩山総理の問題
      - 偽装献金や脱税問題が発覚。
      - 退任後も責任を取らず逃げ切る姿勢。
  - 闇僚の不祥事
    - 具体的な事例
      - 川端文部科学大臣の政治資金不正使用。
      - 柳田法務大臣の国会軽視発言。
  - 民主党議員の不祥事
    - 小沢元代表の問題
      - 政治資金規正法違反で強制起訴。
      - 違法献金問題が続出。
- 国民への裏切り
  - マニフェストの破綻
    - 実現不可能な項目
      - 子ども手当や高速道路無料化の撤回。
      - 消費税増税についての明言と実際の方針の不一致。
  - 国民への説明の欠如
    - 重要政策の国際公約化
      - 国内の意見を無視し、国際的な約束を優先。
      - 沖縄への説明不足が信頼を損なう結果に。
  - 基本政策の方針転換
    - 普天間問題の迷走
      - 県外・国外移設から辺野古移設への回帰。
      - 鳩山総理の発言が混乱を招く。